

## 第8回 コラム集「こどもと共に育つ」

コラム集「こどもと共に育つ」の第8回目になります。こどものひろばで活動し、現在も子どもに関わっておられる方にそれぞれコラムを書いてもらっています。小学校教諭、スクールソーシャルワーカー、社会福祉士、カウンセラー、介護福祉士という様々な立場の5名の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっていますので、ぜひご覧ください。感想等もお待ちしております。



何学年末に向けて成績付け等々でバタバタな日々を送っています。つたです。

先日、授業参観がありました。

授業を始め、1人1人が友達と改善し合いながら作った資料を説明し、最後には参観者へ感想を聞き、感謝まで子どもたちがやりきりました。

参観者に感想を聞く際、子どもたちは自分の親以外に指名しに行くという方法をとりました。挙手制にしなかった理由として、「手を挙げる人以外の人の感想も聞きたい」「家の人が来れない人もいるから」という子どもたちの想いがありました。

その想いを聞き、「1人1人を大切に」という願いが子どもたちに浸透し、形になった気がしました。

日々、前に出すぎず、喋りすぎず、子どもたちが考え、失敗から気付ける授業をしたいと考えております。ちなみに、授業参観の45分間でつたが話したのトータル1分ほど。居なくても授業を成立させてくれる頼もしい子どもたちですが、全校朝会後も、つたを置いてさっさと教室へ帰っていくので、少しはつたのことも大切にしてほしいものです。笑

写真は家から車で20分で行ける島です。お近くに来られた時はぜひ、誘ってくださいませ。



こんにちは！さとみんです。

最近言葉で伝えるのが上手くなったなあと感じます。

友達と公園に行った際、すいすいと壁を登っていく我が子。

それを見て友達も挑戦したのですが、なかなか上手く行かず、途中で諦めてしまいました。

ここに足をかけて、手はここ。そしたら次はここに…と丁寧に1つ1つの過程を説明しながら、実践して友達に伝えます。

その通りに身体を動かした友達は見事に壁を登りきることができ、やったねー！と友達の成功を喜んでいました。

やり方でも、気持ちでも、言葉にして伝えるって、生きていく上で、やり続けられないといけないことだし、小さい時からの積み重ねが大事だなと思いました。

言葉にして伝えることは、大人でも難しいなと感じることがあるのに、5歳の我が子が、今自分の分かる言葉を一生懸命使って話してくれる姿を見ると、こちらも1つ1つの言葉を丁寧に使っていないといけないですね。

子も親も新たな気づきがあり、成長していくことが楽しい毎日です。

これからも一緒に頭と身体をいっぱい使って過ごしていこうと思います。



みなさんお久しぶりです。のびのび職員のたくとです。

さてさて今回もコラム書いていこうと思うのですが、最近のびのびの活動をしていて自分と似ているなと感じることがあったのでご紹介しようかなと思います。

その子は中学生で不登校なのですが、話をしていると自己分析がすごくよくされていると感じます。なぜ学校に行けないのか、またそれに対して、昼夜逆転していることやコミュニケーション能力が低いからなのではないかなど自分なりによく考えているんだなと感じられます。自分自身も不登校をして布団の中にいる時間が多いと否が応でも考える時間が多かったなと思います。その子と自分では家庭環境や考える内容は違えど、その子とし共通していることと言えば、「学校に行かないと行けない」という意識をもって自己分析し、

課題を見つけそれに対してどうするべきなのかを考える。そういうインプットする時間が多くなるのはよくわかるなあと思いながらいつも話を聞いています。また、自分の場合、自分1人で考えることはたいてい堂々巡りになっていました。行きたいという理想と行けない現実を自身の心に突きつけるだけで、自分を傷つけて自分を嫌いになっていきます。じゃあその時の自分にどうして欲しかったのか？と言われると「どうして欲しかったとかはない。」と言いそうですが、関わる大人としては、アウトプットの機会を増やしてあげたいなと思っています。たまたまこの子も不登校ですが、その他の生きづらさ困りごとにも共通することかなとも思います。今回はこの辺で。。



元・山科青少年活動センター（やませい）職員、現・滋賀県湖南市スクールソーシャルワーカーの上原です。前回までは、中学校での仕事について書いてきましたが、最後に、地域の居場所活動をご紹介しますと思います。

2022年1月、私は不登校の状態にある中学生を対象に、「ドーナツハウス」という事業を始めました。私と一緒に活動するのは、「家庭教育支援コーディネーター」として小・中学校に勤務している2人の「地域のおばちゃん」です。主任児童委員やPTA役員等として活動した経験から地域を熟知するとともに、たくさんのお子もたちに幼少期から関わってきた存在です。毎週土曜日の午前中または夕方に開催し、場所は地域のコミュニティセンターをお借りしています。



「ドーナツハウス」はだれでも自由に参加できるオープンな形ではなく、来てほしい子どもに個別に声をかけて参加を促し、1回につき1家庭に限定した居場所です。私たちスタッフは全員が学校関係者ですが、子どもに学校の話は原則しません。スタッフが家で獲れたジャガイモを持ってくれば、「やってみようか？」とポテトチップス作りをしたり、「自転車に乗れるようになりたい」という子どもの一言から自転車の特訓が始まる日もあったりします。とにかく楽しく、一緒に料理をしたり、ボードゲームで遊んだりしながら笑顔で過ごせることと、子どもたちがお腹がいっぱいになって帰ることを大事にしています。中学生を対象にしていますが、きょうだいや保護者の参加も歓迎です。「ドーナツハウス」への参加が、子どもや保護者の本音が聞ける関係を築くことにつながっています。

スクールソーシャルワーカーは子どもや家庭を適切な支援機関に「つなぐ」ことが仕事だと思われがちですが、自らの手で地域に新たな活動をつくることはソーシャルワーカーとして当然と思っています。やませいで経験が今の仕事に活かしていると感じています。1年間読んでいただき、ありがとうございました。



ぴーちゃんです。もうすぐ心理士2年目を迎えようとしています。1年目を振り返った感想は、「難しい」、「上手いかん」！

発達に焦点を当てて助言する機会が多いのですが、私が持つ支援の引き出しは多くないし、「伝えなきゃモード」になり、結局一方通行になり、反省する日が多かったです。

最近は原点に帰り、「傾聴」を意識して保護者の話を受け止めながら聴いていると、話が弾み、笑顔で帰っていかれることが多くなりました。上手いかなんことも多いですが、まあまあいい感じでできた？みたいな日も少しずつ増えてきたような気がします。

子どもと関わって感じたことは、ひろばなどで多くの子と関わっていたかと思っていたけど、まだ遠慮していたなど。子どもは本当に予測のつかない行動をするので(いい意味でも怖い意味でも)、子どもの安全を守るために何をするか、判断を瞬時に取れる状態にしておく必要性を改めて痛感した1年でした。

近況:金沢に行きました。

